



フェリス女学院大学カリキュラムに関するアンケート調査について

■実施日

アンケート調査：2025年11月14日（金）～11月28日（金）

■実施企業・団体数

5企業・団体

■実施目的

本学の卒業認定・学位授与方針(ディプロマポリシー)として定めている学力や資質、能力等を卒業生が発揮できているのか、またその能力を有しているのかを確認し、キャリア形成支援の観点で改善を図る。

■実施形式

オンラインによるアンケート調査

<事前アンケート設問項目>

- 設問 1. 本学卒業生は基本的教養および専門分野の知識・技能を活用する能力を発揮していると思われませんか。
- 設問 2. 本学卒業生は、業務において高度な外国語運用能力および専門的な日本語運用能力をどの程度発揮していると思われませんか。
- 設問 3. 本学卒業生は、批判的な思考力と高い倫理性をもとに、自ら課題を発見し解決する能力をどの程度発揮していると思われませんか。
- 設問 4. 本学卒業生は、他者と効果的にコミュニケーションを図り、自己を的確に表現し発信する能力をどの程度発揮していると思われませんか。
- 設問 5. 本学卒業生は、多様な文化・価値観をもつ他者を理解し、他者のために働き、他者と共生する能力をどの程度発揮していると思われませんか。
- 設問 6. 本学卒業生は、進取の気性に富み、伝統を尊ぶ精神をもち、新しい価値を創造する能力をどの程度発揮していると思われませんか。
- 設問 7. 本学卒業生が、「学生時代経験しておくと思われものは何ですか。上位3つを選択してください。

<選択肢(設問 1～6)>

非常に発揮している、ある程度発揮している、あまり発揮していない、発揮していない、の4選択肢から選択。

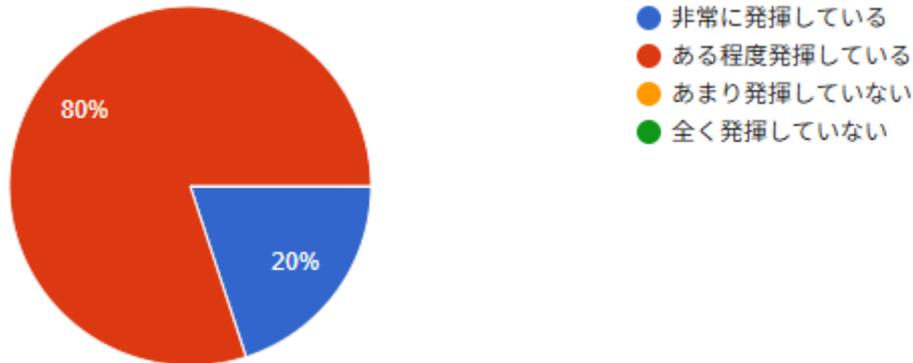
<選択肢(設問 7)>

専門教育の科目・講義、一般教養の科目・講義、「アクティブ・ラーニング」型の授業（グループワーク・ディスカッション）、語学、情報リテラシー、留学、各種検定・試験、部活・サークル、ボランティア、アルバイト、インターンシップ

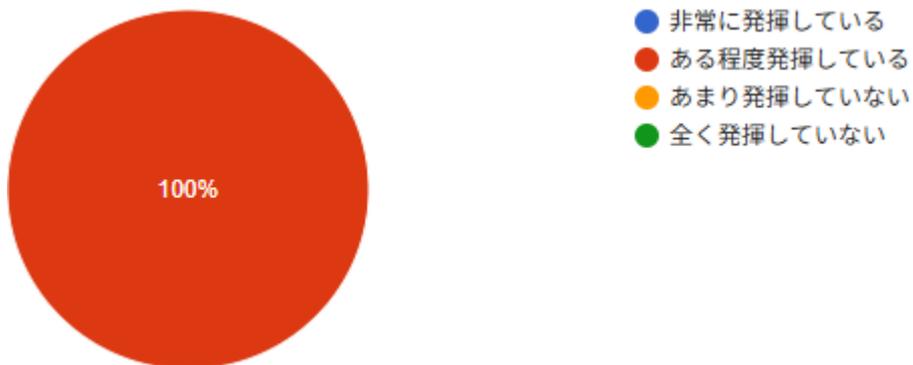


■結果

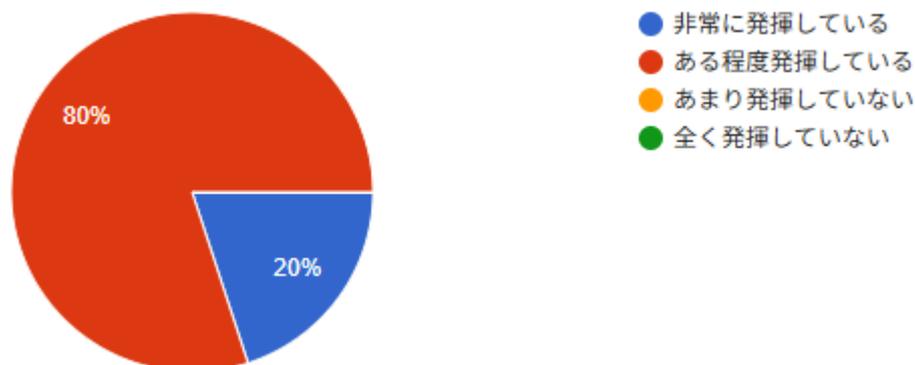
1. 基本的教養および専門分野における知識・技能の活用



2. 外国語および日本語運用能力

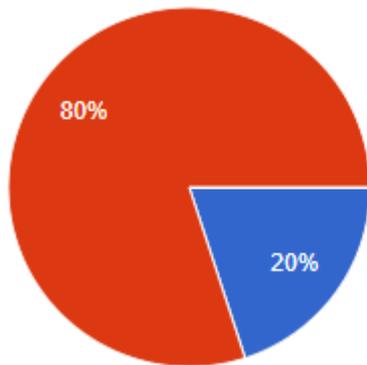


3. 課題発見・解決能力



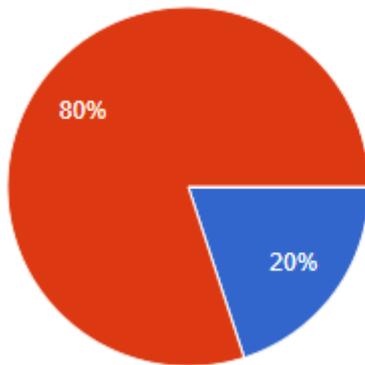


4. コミュニケーション能力



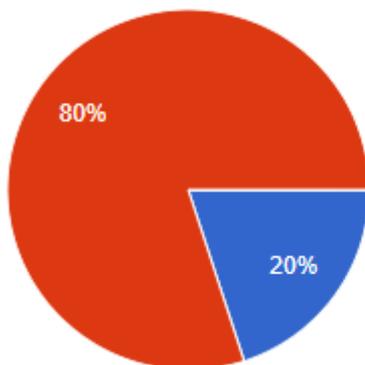
- 非常に発揮している
- ある程度発揮している
- あまり発揮していない
- 全く発揮していない

5. 多様な文化・価値観の理解と共生能力



- 非常に発揮している
- ある程度発揮している
- あまり発揮していない
- 全く発揮していない

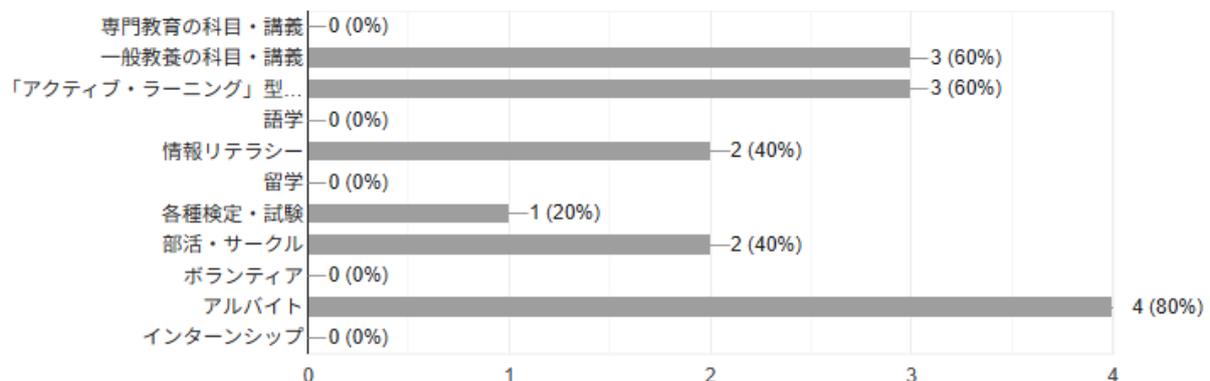
6. 進取の気性と伝統を尊ぶ精神



- 非常に発揮している
- ある程度発揮している
- あまり発揮していない
- 全く発揮していない



7. 学生時代経験しておくと思えること



■結果

各企業・団体からの回答について以下の通りの気づきを得ることができました。

(1) 基本的教養および専門分野の知識・技能を活用する能力

企業側からの評価として「ある程度発揮している」との見解でした。今後は、個々人のますますのスキルアップにフォーカスをおいて各種プログラムを修正していくことが必要と考えます。

(2) 高度な外国語運用能力および専門的な日本語運用能力

企業側からの評価として「ある程度発揮している」との見解でした。市場が多国籍化する近年、いつどのようなシーンにおいても、外国語運用能力や日本語力を高めておくことは必須であることから、学生たちの学びにおいても重点項目として喚起していきたいと考えます。

(3) 批判的な思考力と高い倫理性をもとに、自ら課題を発見し解決する能力

企業側からの評価として、「ある程度発揮している」との見解でした。他者との協働といった観点での評価をいただいたことから、本学での学びが卒業後にも実践できていることの現れと考えます。

(4) 他者と効果的にコミュニケーションを図り、自己を的確に表現し発信する能力

企業側からの評価として、「ある程度発揮している」との見解でした。調整役に徹する力を評価いただきましたが、卒業生それぞれがシーンに応じて、より一層の発信能力を高める学びや経験の場を、特に高学年において多く取り入れることで、実装していく必要があると考えます。



- (5) 多様な文化・価値観をもつ他者を理解し、他者のために働き、他者と共生する能力
企業側からの評価として、「ある程度発揮している」との見解でした。卒業生一人一人が、「他者のために働く」という意識をもって就業していることを評価いただくなど、**For Others** の精神が卒業後も実践されていることがわかります。
- (6) 進取の気性に富み、伝統を尊ぶ精神をもち、新しい価値を創造する能力
企業側からの評価として、「ある程度発揮している」との見解でした。新しい価値観を創造するためには、柔軟な思考やプロセスも加味した判断が求められます。引き続き、在学中の様々な諸経験において、これらの体現に向けたカリキュラム展開を継続していくことが必要です。
- (7) 学生時代経験しておく役立つこと
企業側からは、①アルバイト、②一般教養の科目、③「アクティブ・ラーニング」型の授業（グループワーク・ディスカッション）、④情報リテラシー、⑤部活・サークル等の回答が挙げられました。企業は「主体的な行動力」と「実務スキル・教養」の両立を求めています。特に「アクティブ・ラーニング」や「一般教養の科目」への言及が多く、自ら考え発信する力や基礎的な知識が必須です。一方で「アルバイト」の言及も多く、社会性や幅広い視野も評価されることがわかりました。大学側には、学生が主体的に動く授業や IT 教育の拡充、課外活動経験に関わる支援が求められます。

■ 本学としての気づき

各企業・団体からのアンケート結果は、少数の回答結果とはいえ、卒業生の実勤務を経て、本学のディプロマポリシーがどのような評価を受けているのかがわかりました。今後、「非常に発揮している」という評価が複数の項目で得られるよう、各種施策の取り組みを強化する必要があります。

キャリア支援課は、従来型の基本的なプログラムは維持しつつも、ディプロマポリシーも意識した正課・正課外での連携したカリキュラムへの諸施策対応及び新しいプログラムの開発を推進していくことを意味しています。企業・団体から、本学卒業生が高い評価を受けられるよう、教職員が一体となって改革に取り組み、その成果を発信していくことで評価の改善を目指してまいります。

以上